

【ポスター発表】

**「働きながら自閉スペクトラム症児を育てる
ひとり親家庭の母親の困難に関する研究」**

○ 氏名 杉之原恵子 (会員番号 9238)

キーワード：自閉スペクトラム症 ひとり親 就労

1. 研究目的

本研究の目的は、ひとり親で自閉スペクトラム症児（以下 ASD 児）を育てる母親がどのような困難をもち、対処してきたかを明らかにすることである。先行研究では、ひとり親家庭の母親が経済的に困窮していること、障害児の母親の就労には様々な困難があること、ASD 児の子育てで母親がストレスを感じるということが明らかにされている。しかし、働きながら ASD 児を育てるひとり親家庭の母親についての研究は見当たらなかった。ASD 児を育てながら働くひとり親家庭の母親は、稼ぎ手役割と子育て役割に加えて、ASD 児の親としての療育・教育役割も担うことになると考えられる。そこで本研究では、働きながら ASD 児を育てるひとり親家庭の母親にこれまでの経験や困難の語りから、これまで直面してきた困難がどのようなものであったのか、また、どのような支援が必要であるのかを明らかにするためにインタビュー調査を行った。

2. 研究の視点および方法

- (1) 調査対象者：自閉スペクトラム症児を育てるひとり親家庭の母親 4 名
- (2) 期間：2015 年 2 月から 3 月と 2016 年 6 月
- (3) 面接内容：半構造化面接を行い、「ASD 児を育てる大変さ」、「仕事との両立について」、「子育てに協力してくれる人や機関の有無」、「働きながらひとり親で ASD 児を育てるために必要な支援」の 4 点からインタビューを行った。
- (4) 分析方法：田中（2013）の KJ 法にならったカードワークを参考にして行いカテゴリー化し、結果図を作成した。

3. 倫理的配慮

大阪府立大学人間社会学研究科倫理委員会にて 2014 年 12 月に承認されている。

4. 研究結果

カードワークによる分析の結果、7 個の大カテゴリー、20 個の中カテゴリー、63 個の小カテゴリーが生成された。結果図を図 1 に示し、大カテゴリーのみのストーリーラインを示す。なお《》は大カテゴリー名である。

ASD 児を育てるひとり親の母親は、《離婚した夫には頼れない》状況で、ひとり親になったことで《稼ぎ手も私》の状況になり、親役割を一手に担うことになる。さらに、子どもが ASD であるため、新たに《ASD ゆえの孤軍奮闘》が加わる。しかし、ASD 児の支援は難しく、《周囲に頼りきれない》、また《支援に頼りきれない》状況である。そのため、

母親は「自分しかいない」という思いになり、「自分しかいないための子どもとの関係」となる。

5. 考察

ひとり親家庭の母親は、夫婦2人で担っていた子育てと稼ぎ手の役割を離婚後は母親が1人で負担することになり、自分しかいないという思いをもち孤立した状況になる。さらに子どもがASDであることで、ASD児の療育・教育役割、コーディネート役割が新たに加わり、母親の困難性が増幅する。また、ASDについては対応や理解が難しいため、親や友人に子どもを預けられなくなり、母親は誰にも頼れなくなる。そのことが、母親の自分しかいないという思いをさらに増幅していく。母親は、より支援が必要な状態であるにもかかわらず、他者にASDについて説明することを諦め、支援を受けにくい状況に自ら追い込むこともあった。このようにASD児を育てるひとり親家庭の母親の困難の特徴は、子どもがASD児であるからこそ自分しかいないという思いを強化し増幅していくことにある。こうしたがんじがらめの状況を解きほぐしていく支援が必要である。母親が稼ぎ手役割と子育て役割を担いつつ、ひとり親としてASDという育てにくさと、まだまだ社会的には理解を得にくいASD児を育てているという背景を理解し、ASDの特性を正しく理解した上での支援があることで、母親はASD児を安心して預けることができたり、相談したりすることができる。子どもの学校や相談支援事業所、移動支援や児童デイサービスなどの福祉サービスなど、母親が安心して頼れる場所が増えることで、母親のがんじがらめの状況が解きほぐされていくと考える。その状況を作るために、母親に寄り添い、手を添えるような支援者が必要であると考えられる。

